

中国の一人でも多くの学生に、日本を好きになってほしい 夫婦の「日中・日本語交流」



～四半世紀の全記録～

作った日本語教材を、
中国の130以上の
大学へ、25年間に
30万冊以上寄贈。

元・朝日新聞編集委員

大森和夫・弘子

日本僑報社 ISBN 978-4-86185-155-1

留学生の一言がきっかけで

25年前、政治部記者として留学生問題を取材していた著者(大森和夫)が聞いた、ある中国人留学生の一言。「奨学金をもらえないので、四十以上のアルバイトを経験しながら留学生生活を送っている。

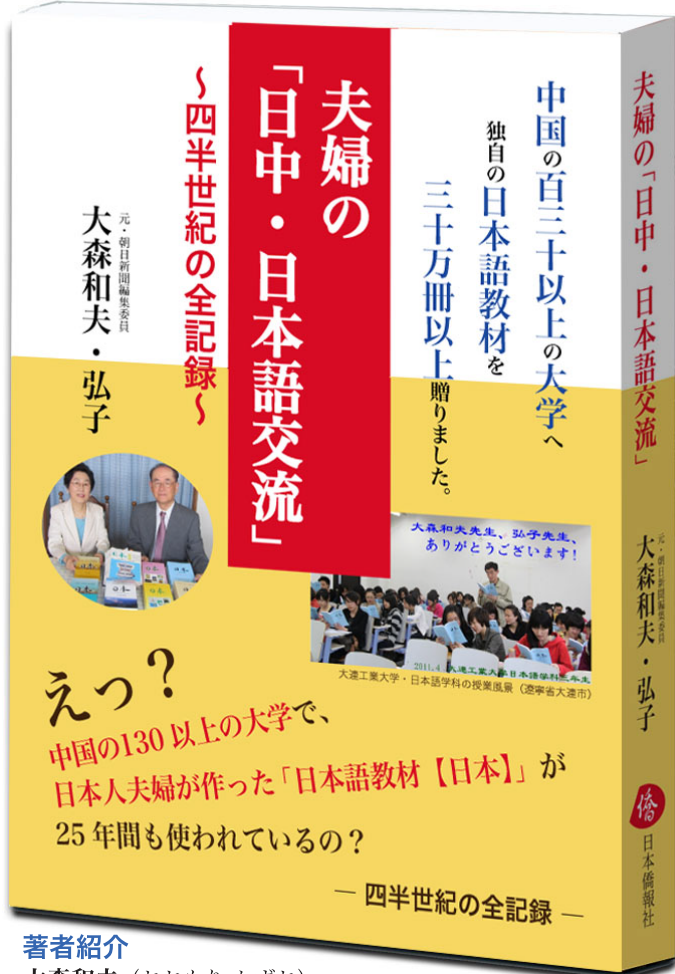
日本が嫌いになって帰国する留学生が少なくない。もっと日本のことをたくさん知って、理解したいのに……彼の言葉を聞いて、「何とかしなければ」という思いが募った。「せっかく日本に留学して日本語を勉強している外国の若者が、日本を嫌いになって帰国してしまうのは、日本にとって大きな損失。

自宅の四畳半から始まった

「日本で学ぶ留学生や、海外で日本語を学ぶ一人でも多くの学生に、日本を好きになってほしい」。そんな思いで、著者は半年後の1989年に49歳で新聞社を辞め、夫婦で日本語の学習情報誌「季刊誌『日本』」を発行、国内のほか中国など海外の大学に寄贈したのが「日本語交流活動」のスタートだった。仕事場は自宅マンション四畳半の「国際交流研究所」。留学生や、短期留学で日本にやって来る中国の学生や教師たちと、時に和食を囲みながらの活発な交流の場所になった。

日本語教材と作文コンクール

8年間に33号まで発行した「季刊誌『日本』」は、中国の130以上の大学に25万冊以上を寄贈。1995年から5回の改訂を重ねた「日本語教材【日本】」も、合計5万冊以上を寄贈した。すべて“夫婦手作り”で、日本の最新事情を反映した内容が学生や教師の感動を呼んだ。さらに、「国際交流研究所」主催の「日本語作文コンクール」は通算19回実施、学生から送られてきた「日本語作文」は19万9758篇にのぼる。本書には、これらの教材の活用事例や、作文コンクール応募者からのメッセージも多数収録している。



著者紹介

大森和夫 (おおもり かずお)

1940年生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。朝日新聞記者(大分支局、山口支局、福岡総局、政治部、編集委員)を経て、1989年1月、国際交流研究所を設立。

大森弘子 (おおもり ひろこ)

1940年生まれ。京都女子大学短期大学家政学部卒業。

ご注文は、日本僑報社 e-shop (中国研究書店)、アマゾンなどをご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。(トーハン 日販 その他 取次コード: 5752)

	夫婦の「日中・日本語交流」 ISBN 978-4-86185-155-1 発行日: 2013年9月29日 A5判 240頁並製 定価: 本体1900円+税	注文部数	ご注文 / 番線印 ご注文の方は、 注文部数、住所 〒、氏名、電話番号をご記入ください
	日本僑報社 e-shop http://duan.jp	部 (送料無料)	
送信 FAX 03-5956-2809			